



なでしこだより 7月号

令和8年6月29日

〇〇ひとみ かがやく なでしこキッズ〇〇

江東区立なでしこ幼稚園
園長 松岡克恵



ホームページアドレス <https://nadeshiko-yo.koto.ed.jp/>

「やってみたい」は成長の原動力

副園長 菅原晶子



6月に入り、泥んこ遊びや砂場で水の遊び等で着替えをすることが増えてきました。小さいながらもみんなと一緒に動こうと一生懸命着替える子どもたちを見ながら、自分の子どもたちが自立していく姿を思い出します。



私には年子の子どもがいます。子どもたちが保育園の頃、お兄ちゃんができることは全部自分もできる!と信じていた娘は、ある時「自分でできる!」と主張し、時間をかけながら一生懸命パジャマに着替えました。終わると「できた!」と自信満々!

「すっぴいね!」と声をかけたのですが、よく見ると前後反対…。その一生懸命さが愛おしく、その時はそっとしておきました。その後も、お兄ちゃんの刺激を受けながら自転車、箸…。と全て自分でやり方を見て覚えていった娘だったので、今でも自立心はある子になっていると思います。

初めは時間がかかったり、うまくできなかつたりすることもあります。が、「やってみたい」という気持ちは成長の大切な原動力になっていくと感じています。



さて、幼稚園では発達や経験に合わせて、援助をしています。着替えを自分でやってみようとする子もいれば、「やって」と大人に頼る子もいます。まずは「自分でやってみよう」と思えるように声をかけながら、小さな成功体験を積み重ねられるようにしています。

そして、一人で脱ぎ着ができるようになった子には「服をたたんでみようか」と、友達の姿を知らせながら、自分で整える力へと繋げていきます。

幼児期は、自分で考え、行動しようとする「自立心」が育まれる時期です。大人が先回りして手伝うのではなく、子ども自身が挑戦する機会を大切にすることで「できた!」という達成感や満足感を味わうことができます。

園ではこれからも「自分でやってみたい」という気持ちを受け止め、必要な援助をしながら子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。ご家庭でも是非温かく見守りながら、お子さんが挑戦する機会を大切にしていきたいませんか?



自分の足で歩かせてほしい。

たとえ、何度転んでも、どんなに遅くても。

自分の手でやらせてほしい。

たとえ、どんなに傷つけても、どんなに下手であっても。

自分の頭で考えさせてほしい。

たとえ、どんなに間違っても。

その間違いが、必ずその後の育ちに役立ってくれるのだから。

斎藤公子著「子育て・錦を織るしごと」より

